



新治小学校だより

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目
～新治のよさを持続して活かしながら、
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和4年度
5月号

令和4年4月28日

「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」

校長 川島 広子

今ちょうど新治の道端にはタンポポが咲き乱れています。

実は、日本で咲いているタンポポの殆どはヨーロッパから人が食用として持ち込んだ西洋タンポポ（外来種と他のタンポポとの雑種の2種類あり）で、この外来種が日本に昔からある在来種の日本タンポポを追いやってしまったそうです。私は、たまにハイキングをするのですが、山奥に行っても在来種のたんぽぽを見かけることはほとんどありません。



しかし、4月半ばに新治市民の森をハイキングしてたんぽぽを観察してみると、神奈川県に昔から咲くカントウタンポポ（日本タンポポの仲間）がたくさん咲いていました。新治の自然が豊かなことがこのタンポポに表れていて、とても感動しました。



さて、1年のスタートである4月の朝会では校長として、子どもたちに一番伝えたいことを話さなければならないと考えました。そこで、1週目は、学校だより4月号にも掲載した、身に付けて欲しい「3つの力」の話をし、2週目は、「いじめ防止」について、道徳の教科書の「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」を題材に子どもたちに以下の話をしました。

- 「ありがとう」「よく頑張ったね」「うれしい」などの心が温くなる「ふわふわ言葉」と「死ね」「キモイ」「うざい」「あっち行け」などの心が傷つく「ちくちく言葉」があること
- 言葉には自分が考えている以上の力があるため、人の心を傷つけ「いじめ」につながる
- 言葉以外にも、暴力や空気（無視や嫌な雰囲気）のいじめがあること
- 「いじめるつもりはなかった」「冗談のつもり」でも、相手が辛い・嫌だと思ったらそれは「いじめ」になること
- 友だちがいじめられていたら必ず大人に相談すること
- 校長をはじめ新治小学校の教職員はいじめを絶対に許さないこと



いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得るおそろしいものです。学校では、「弱いものをいじめることは人間として絶対に許されない」という認識を子どもたちに行きわたらせます。また、子どもの発する危険信号をあらゆる機会をとらえて鋭敏に感知すると共に、いじめにつながる子どもたちの言動を見逃さずその場で指導し、いじめの兆候の早期発見と摘み取りに努めます。更に、人の心に寄り添い、困っている人を助けられる心を育てていきます。

いじめは家庭・学校・地域などのすべての関係者が皆これらの同じ思いをもち、一体となって取り組むことが必要です。子どもたちの豊かな心の育成への取組に、ご家庭・地域の皆様のご協力をお願いいたします。皆で「ふわふわ言葉」でいっぱい学校にしていきたいと思います。

※学校HPに、「新治小学校いじめ防止基本方針」が掲載されています。ぜひご覧ください。